

目黒稲門会会報



(題字：眞仁田 勉 初代会長)

第53号 2011年12月

発行人：大野 利幸 編集長：地田 博昌 事務局長：小杉 哲

事務局：〒152-0023 目黒区八雲4-9-14 Tel 090-7825-6270

2012年 新年会のご案内

2012年新年会を1月15日(日)目黒雅叙園にて、下記の通り開催致します。

毎年恒例の第一部講演会では、中国研究者として知られる西園寺一晃(さいおんじ かずてる)氏をお招きしました。躍進めざましい中国経済について、豊富な経験と研究成果をもとに、今後の可能性を探る興味深い講演になることと存じます。マスコミの表面に出ないお話にも期待したいと思います。

西園寺氏は、目黒区立菅刈小学校出身で、現在祐天寺在住。村上副事務局長のご紹介で、ご快諾を頂きました。

年の初めの出発に、稲門の友と酒を酌み交わし、経済談義、ゴルフ談議に花を咲かせてはいかがでしょうか。大自然の脅威に対し、「絆」という言葉が注目されています。先輩後輩、ともに校旗を囲んで稲門の「絆」を確認し、声高らかに「都の西北」を斉唱したいと存じます。初めてご参加の方、久方ぶりの方、いつもお越しの皆様、心よりお待ちしております。

記

1. 日時：2012年1月15日(日)16時開会
(受付開始 15時30分)

2. 会場：目黒雅叙園(3F シリウスの間)
〒153-0064
東京都目黒区下目黒1-8-1
電話：03-3491-4111

JR目黒駅西口、東急目黒線、地下鉄南北線、三田線目黒駅から行人坂を下って3分、(権之助坂を下って5分)

3. 講演会：16時～17時

講師：西園寺一晃氏

演題：『バブルの崩壊はあるか—転機に立つ中国経済』

4. 懇親会：17時～19時

5. 会費：会員10,000円、ご家族5,000円

当日会場受付にてお支払い下さい。

6. 目黒駅よりの無料バスはありません。帰りの目黒駅行き無料バスはありますので現地で時間をご確認下さい。

7. 同封の返信用はがきを12月17日(土)までにご返送下さい。

講師のプロフィール



西園寺一晃氏

1942年東京生まれ。明治の元勳・首相・枢密院議長・西園寺公望の曾孫。1955年目黒区立菅刈小学校卒。1958年から一家で中国に移住し、10年間北京滞在。1966年北京大學経済学部卒、朝日新聞社入社。日中関係の調査研究にあたる。定年後、北京大学日本研究センター在外研究員。北京大学客員教授。伝媒大学客員教授。北京城市大学客員教授。工学院大学客員教授。工学院大学孔子学院学院長。東京都日中友好協会常務副会長。研究者、フリーランスジャーナリスト。

中国滞在中に文化大革命がおこり、帰国後、『青春の北京』(1971年、中央公論社)を執筆。他に著書多数。

(田島 記)

各部会からの案内・報告

俳句部会

(前号より続く)

芭蕉没後その師風を失った門人たちのなかには、再び貞門や談林の世界へと戻ってゆくものもありましたが、その孫弟子達により蕉風復帰の気運が高まり、寛保3年(1743年)の芭蕉の五十回忌をきっかけとし「芭蕉に帰れ」の運動が興りました。これがいわゆる中興俳諧でして、その中心人物は与謝蕪村です。時代は八代将軍吉宗の治世の末期から十代将軍家治の時代までの約50年間に及びました。

蕪村は俳諧師であると共に、池大雅と並び称される画家でもありましたので、蕪村の句には芭蕉とは違って色彩をより多く取り入れた発句が多かったのです。「菜の花や月は東に日は西に」等がその典型でありました。

中興俳諧は芭蕉百回忌(1793年)ごろには下火となり、その後小林一茶が現れましたが、彼は俳諧の世界に大きな影響を与えることはありませんでした。その後俳諧は低迷したまま明治に移り、その根本的変革は正岡子規の出現を待たなければなりませんでした。(了)

第32回(2011年9月度)「萩句会作品」

安藤 虎酔	風呂上り今宵新豆腐ありにけり
川井 素山	白粥に柚味噌のせ食む病衣かな
保井 寶正	秋高し季の移ろひの古利かな
米田 文彦	石壁に祈る牧師や秋高し
佐々木彩女	巖流の島浅く見ゆ葉月潮
佐久間 喬	赤とんぼ追ふ子まろびて幼き日
牧野 里山	朝霧や林試の森に日の光
青木 英男	秋高し飛行機雲は一直線
阿部喜久雄	馬追ひの鳴き加はりて闇の濃く
佐藤 喜仙	街中の細長き輪の盆踊り

俳句部会長 佐藤喜孝

麻雀部会

1. 3区(目黒、世田谷、大田)親善麻雀大会は、都合により延期となりました。

2. 今後の予定

12月11日(日)、第45回定例麻雀大会が開催されます。皆様奮ってご参加ください。

麻雀部会長 鶴野洋治

ウォーキング部会

本格的な冬の季節が近づいてきましたが、健康のために元気に歩きましょう。

実施報告

9月例会	9月29日(木) 鎌倉 朝比奈切通し晴天に恵まれ12名参加
10月例会	10月28日(金) 三崎口 荒崎海岸からソレイユの丘10名参加
11月例会	11月12日(土) 王子駅北口 鬼平を歩く

今後の予定

12月例会	高野台から玉川上水沿いに東京たても の園へ 日時 12月9日(金) 午後1時集合 場所 西武国分寺線鷹の台駅改札外
1月例会	亀戸七福神巡り 日時 1月5日(木) 午後1時集合 場所 JR亀戸駅改札外
2月例会	鬼子母神から早稲田まで 日時 2月18日(土) 午後1時集合 場所 JR目白駅改札外

参加予定の方は牧野まで連絡ください。

なお、小雨は実施いたします。

携帯 090-9649-6868

Mail tamakino@aol.com

ウォーキング部会長 牧野武夫



美術・歴史鑑賞部会

第34回の部会は『ゴヤ展』です。

日経おとなの「OFF」に、2011年見逃せない美術展として、プラド美術館所蔵『ゴヤ 光と影』展が紹介されていた。「プラドの至宝“マハ”が40年ぶりに日本へ―強い野心により国王カルロス4世の首席宮廷画家に上りつめ、王候貴族の優雅な肖像画を多く描いたゴヤ。だが後にナポレオンのスペイン侵略によってもたらされた悲惨な現実や、幻想世界への関心を深めていく。そんな光と影の交錯のもと、ゴヤは82歳で生涯を終えるまで精力的に創作活動続けた。この展覧会ではヨーロッパ絵画の宝庫、プラド美術館が所有する油彩画・素描など72点を中心にゴヤ芸術の全貌を紹介していく。」とある。注目する「着衣のマハ」のマハはスペイン語で“小粋な女”を意味する。着ている服はトルコ衣装。異国情緒を表現している。

この年末に名画鑑賞を楽しみませんか。

- 「プラド美術館所蔵―ゴヤ展」
- 場所：国立西洋美術館（上野公園）
- 日時：12月21日（水）9時20分集合（入り口前）
- 参加予定の方は12月15日（木）までにご連絡下さい。

美術・歴史鑑賞部会長 後藤克彦

囲碁部会

9月25日（日）戸山キャンパスにおいて、都内各地域稲門会及び囲碁会現役から52人が参加し、第11回稲穂会囲碁大会（個人戦）が行われた。

高段者から級位者まで5クラスに分かれ熱戦が展開され、現役学生と校友と囲碁を通して交流が行われた。

目黒からはAクラスで大久保健治七段（昭和37年理工）、Cクラスで保井 正三段（昭和34年 政経）が参加したが、ともに1勝3敗でした。学生には歯が立ちません。

囲碁部会長 保井 正

グルメ部会

「新そば会」

9月29日（木）と10月5日（水）の両日、港区元麻布の「総本家 更級堀井」で恒例の「新そば会」が開催され、総勢27名のご参加がありました。

毎年、この新そば会は、味の良さと雰囲気の高さで評判が高く、多くの会員が楽しみにしています。今年も昨年に引き続き、中央稲門会の吉田会長もご参加くださり、お互いの稲門会の交流にもなりました。

まずコース料理は、八寸から始まり、温かいきのこそば、芸術品のようなそば寿司、香り高い松茸入り茶わん蒸し、めいめいの鉄板での豪華な鴨焼、そしてお店自慢のかき揚げ天ぷらが出てくると、いよいよお代わり自由のおそば食べ放題となりました。もりそば、更科そば、田舎そば、季節の菊そばを次々と堪能しました。

第1回目（29日）は11名の参加者で、楽しくお話が弾みました。第2回目（5日）は16名で賑わいました。両日ともに、皆様、そば湯割り焼酎を楽しみながら、おいしいコース料理とおそばに舌鼓を打ち、「また来年も楽しみにしていますよ」とおっしゃって帰宅されました。

グルメ部会長 海沼美智子



若木会

12月10日土曜夜、23区若手合同稲門会を開催します。目黒はじめ城南地区を中心に、40代前後までの若手で年1～2回懇親会を開催し始めたものであり、何とか3回目にこぎつけました。

日時の関係で各種部会活動にはなかなか参加できない若手メンバーも参加が見込まれます。目黒内外の親睦を深める貴重な機会と思っています。

記

日時：12月10日（土） 18：00～20：00

場所：銀座ライオン 恵比寿ガーデンプレイス店

会費等の詳細は石川までお問い合わせください。

若木会部会長 石川智子

ようこそ！部会活動へ

ゴルフ部会へのお誘い

ゴルフ部会長 大杉邦雄（昭和40年 法）

ゴルフ部会が発足して12年目を迎えます。第1回大会は1999年5月に開催され、今年の11月久邇カントリークラブで開いた大会が第29回目となりました。最近は春、秋の2回、大会を開催しています。ほかに、校友会主催の『校友会ゴルフ大会』が毎年秋に開催されており、各地区の稲門会から150名前後参加しています。当部会からも毎年2～3チームが参加しています。

目黒稲門会ゴルフ大会への参加者は、毎回30名程度、参加者の平均スコアは105前後、うまい下手を問わず、ゴルフの好きな人が気軽に参加できる和やかな会です。右曲球（スライス）、這球（チョロ）掘球（ザックリ？）界外球（OB）もまた楽しからずや！泡沫の人生の中でゴルフと巡り合えた私たちは本当に幸せ者。お互いに伝統を遵守しながらダフりましょう。初めて参加される方大歓迎です。

参加資格：会員、夫人、友人などどなたも歓迎。
試合形式：持ハンディ 18ホールストロークプレー。

（新ペリア方式採用検討中）

会 場：毎回違うコースを選択。

費 用：25,000円程度（プレー代、パーティー代、バス代込）

交 通：大会当日はバスをチャーターし、目黒区内10か所で参加者をピックアップし、ゴルフ場への送迎を行います。帰りのバスの中は、パーティーの延長でいつも賑やかに盛り上がっています。

心から、ゴルフを愛するならば、大自然と、そこに棲息するものたちを決して痛めてはいけない。フロリダのゴルフ場では、カモメの一群にボールを盗まれたという苦情が毎日のように支配人に寄せられた。支配人は、カモメもコースにいれば『ボールを打たない仲間』と思っている自然愛好家だった。そこで鉄砲を撃つ代わりに、こんな立札を立てることにした。『カモメの夫婦に告ぐ！白くて丸くてツルツルしているのは、卵ではありません。あんまり無精しないで、自分たちでせっせと卵をうみなさい。当ゴルフ場支配人より』

（夏坂 健、“わが心のホームコース”より）

部会へ参加ご希望の方は大杉までご連絡ください。

携 帯 090-7900-0246

メール osugik@a01.itscom.net

リレー随筆

老舗そば屋と水泳の我が人生

堀井良造（昭和35年 政経）

昭和11年10月、港区麻布永坂町にあった更科そば本家の8人兄弟の末っ子として生まれました。当時の更科そば店は、そば屋の本店として栄えておりました。

幼少のときより婆やが一人ずつついて、幼稚園の送り迎えについてくれました。

私は幼い頃末っ子のせいか泣き虫で、教室の窓の外に婆やの姿が見えなくなるとすぐに泣いてしまい、母がやむをえず幼稚園を中退させることにしたそうです。

その頃、父が事業に失敗して、昭和18年ごろには店を閉店することになりました。母と下の3人の子供は日本橋の方へ引越しました。

母一人の収入では食べるものも無く、貧乏のどん底でした。東京の大空襲も経験し、焼夷弾が落ち、まわりの家が燃え、夜空が真っ赤に染まったのを覚えています。

戦時中は遊ぶ所も無く、隅田川や池で遊ぶことが多く、二度溺れたことがあります。

一度は沼みたいな池で深みの底に足が入って抜けなくなり、頭まで沈み、泥水を透して太陽がキラキラ輝いていたことを今でも鮮明に覚えています。その溺れかけた少年が後に水泳部にはいるなんて、水泳が好きだったんだと思います。

そして、終戦をむかえました。昭和24年、麻布十番の有志が戦前の更科そばを復活させようと、父を呼び、十番に戦後の新しい更科そばの店を開くことになりました。母と私達も十番に戻り、私も中学1年の終わりに、港区立城南中学に転校しました。中学2年の時、正式に水泳部に入部し競泳の練習をはじめました。3年の秋、東京都中学水泳大会で100米平泳ぎで優勝いたしました。

高等学院時代も水泳部に籍を置き、東京代表として国体にも二度出場いたしましたが、準決勝どまりで、全国大会の決勝には一度も出られませんでした。

しかし水泳が好きだったので大学進学後も水泳部に入部しましたが、競泳では二流のレベルでしたので水球をやることになりました。

当時の早稲田大学水泳部は、大学選手権で競泳は優勝できず、水球も一部リーグの下位で低迷し、我々の年代の水泳部の生活はあまり華々しいものではなかったのですが、苦しい練習のなかにも楽しい青春時代の思い出がいまでも多く心に残っています。

勉強になったのは、水泳部の生活は、ある意味で

人生の縮図だと思っています。

卒業後、社会人になってから定年迄の約40年間の一番難しい人間関係を、たった4年間で学べたからです。

それと一番良かった事は、丈夫な体、健康を頂いたと思っています。

卒業後は、社長が他人の更科そば店に入り25年勤務し、途中からは役員として働きましたが、所詮は他人の会社、社長と意見が合わず、昭和59年に独立し、現在の更科堀井を開業致しました。

幸いにも、息子が独立と同時に大学を卒業し、一緒に店をやってくれると言ってくれたので、独立に踏み切れたと思っています。それから27年、東都のれん老舗の会にも復帰でき、現在に至っています。

私の半生は、正に水泳とそば無くしては語れないと思っています。

会員の広場

歌は世につれ 世は歌につれ・・・

田畑 繁（昭和30年 法）

歌の文句もメロディーも、その時代々々をよく反映している、そして、歌によって過ぎ去った時が思い出されるといわれます。

私たちがいわゆる“カラオケ”と称して歌ってきた様々な歌は、戦後どのように推移し、どのように呼ばれてきたのか、ちょっと考えてみました。

現在、テレビ唯一の歌の定時番組は、NHK火曜夜の「歌謡コンサート」です。そうなのです。私たちが口ずさむ殆んどのは「歌謡曲」と呼ばれているのです。

その歴史をたどってみたいと思います。

戦後間もなく、戦前、戦中の形式・リズムを受け継いだ歌が、主としてラジオを通して急速にはやり出し、戦後の庶民感覚なども反映しながら広く地域社会に浸透していきました。「のど自慢番組」なども大きな波及効果になったと思います。

これらの歌は“流行歌”と呼ばれました。その代表的な歌手が霧島 昇、藤山一郎、二葉あき子（敬称略、以下同）でしょう。

テレビの開局後の十数年間、歌のスタイルやジャンルが次々に多様化していきました。マスコミ等がこれらを総称して、大衆的な歌曲——“歌謡曲（広義）”と呼ぶようになっていったのです。

多様化の中で顕著なのは「ムード歌謡」でしょう。数人の男性歌手がソロと合唱でかもし出す甘く切ない旋律で一世を風靡したのは昭和40年代、高度成長期でした。激務に耐えた後の男性たちの癒しになっ

たのが、この「ムード歌謡」だったといわれています。代表的なグループサウンズはマヒナスターズ、東京ロマンチカ、ロス・インディオスなどでした。

長年にわたり、その時代感覚にマッチした歌詞・内容・音楽形式による歌が人々の間で歌われてきましたが、現代産業社会では、一部のジャーナリズムにのった人々のもとで動向が左右される傾向があります。しかし歌謡曲の持つ音楽構造は、どんなに新しいものでも発声法、音階、旋律、形式など伝統的要素を基盤にしていると考えられます。

前に記した歌謡曲（広義）は、やがて大別して次の部門に分類されるようになっていきました。

- (1) 狭義の「歌謡曲」……最初に述べた“流行歌”の要素をそのまま受け継いでいる曲。代表的な歌手は美空ひばり、五木ひろしでしょうか。
- (2) 「演歌」……哀調を帯びた日本のメロディーで、こぶしと間（ま）を生かした唱法が特徴。この分野は北島三郎、三橋美智也、都はるみ、坂本冬美でしょう。
- (3) 「外国調歌謡曲」……外国のポピュラーソング（シャンソン、タンゴ、ワルツ、ルムバ等）の旋律を基調にした歌唱曲。代表的な歌手は越路吹雪、岸 洋子、菅原洋一と言えるでしょう。
- (4) 「ポップス」……語源はアメリカのポピュラー・ソングからです。軽音楽的な要素を多く含んでいます。日本ではポップスの範囲が広く、
 - a) 上記（1）の狭義の「歌謡曲」がや、欧米的な色調を帯びたものや
 - b) いわゆるライブなどで歌われる、強いリズムや独特のメロディーを含んでいる曲等があります。
 - a) で著名な歌手といえば谷村新司、五輪真弓、b) では矢沢永吉、桑田佳祐ではないかと思います。

以上、大ざっぱに、いろいろと書きましたが、みなさまのご参考になれば幸いです。

♪ 歌謡曲は いつでも どこでも

私たちの 心の友です・・・ ♪

原稿募集しています

編集委員会では、皆様の原稿を募集しています。海外での貴重な体験、今だから言えるお仕事の秘話、在学中の感動物語、今も続く部活動の仲間との交流等々、奮ってご寄稿をお願いします。

用紙は会報専用の電子原稿を使用の上、編集長宛メールにてお送り下さい。まずは、編集委員会へメールにて原稿用紙をご請求下さい。他の原稿用紙をご使用の場合も歓迎致します。編集委員会まで御相談下さい。皆様の傑作、労作をお待ちしております。

青年海外協力隊奮闘記

伊藤正芳（平成9年 政経）

この国に来て、もう1年以上が経ちました。アフリカ大陸南東部の内陸部に位置する、マラウイ共和国という国です。

アフリカ大地溝帯に沿うように南北に細長い国土を、世界地図上ですぐに見つけるのは少し難しいかもしれません。却って「マラウイ湖」のほうがわかりやすいでしょう。やはり南北に細長いこの湖は、世界遺産にも登録されているほど美しく雄大な景観を湛えています。この湖は貴重な自然であり観光資源であると同時に、人々の生活を支えています。湖岸の村では漁業が営まれていますし、この国の電力はほぼ水力発電で賄われています。

とはいえ、電力が行き渡っているわけではありません。電化率は7%といわれ、それすら頻繁な停電に見舞われます。そのような環境に1500万人が暮らしていますが、その1人当たり国民所得は300ドル程度。世界最貧国のひとつです。国家予算も4割は援助に頼らざるをえません。

人々が健やかに生きるため必要な薬さえ、不足しがちです。その国の地方の病院の管理部門に、1年前、私は赴任しました。国際協力機構（JICA）が派遣する青年海外協力隊のひとりとしてです。

管理者として、管理部門の業務改善を行うのが私の任務です。管理部門と一口に言っても、そこにはさまざまな担当官が属しています。物品の調達・供給、給食の配膳、救急車等の配車、電話通信網の維持、敷地内の警備、記録の管理……病院が滞りなく機能するためのあらゆるロジスティクスを担います。

予算が足りない。機材が壊れてもすぐには直せない。ひとつ必要なものが揃ったと思えば、また足りないものが出てくる。この厳しい状況のなかで、それでもこちらの人たちは、その場にあるものだけで何とか業務を回そうとしています。私にはとても思ひもよらない方法で、その場その場を切り抜ける術を身につけています。

金槌がなくても、落ちている石で器用に釘を打ちつけます。漏斗がなければ、その場でペットボトルの底を切って作ってしまいます。ひとりひとりがブリコラージュの達人たちです。厳しい環境を生き抜いてきた力強さを感じずにはいられません。ただ、だからこそ「もったいない」とも感じています。もう少しうまくその力を合わせたら、もっとよくできる、と思うのです。協力すれば改善できる。今はこのことを知ってもらうのが、日本からやってきた私の務めだと思っています。

平時のみならず、大きな災害を被ってさえ、日本

人は助け合って生きることができます。それは世界に誇るべき、そして世界に伝え広めるべき心です。

そして、もうひとつ取り組んでいることがあります。日本が培ってきた整理整頓などの「5S」や、知恵をつかって工夫を積み重ねていく「改善」活動です。日本企業発のこれら手法は、その枠を飛び越えて、いまや海外でもまた企業セクター以外でも取り入れられています。

JICAはアジア・アフリカ知識共創プログラム「きれいな病院プロジェクト」として、「5S-KAIZEN」を展開しています。この日本発の手法をつかって、病院全体の衛生環境や業務効率の向上を目指そうというものです。日本の知恵が世界のために役立つ場所が、ここにもあります。

管理部門の業務改善にせよ、病院全体の「5S-KAIZEN」活動にせよ、まだまだ始まったばかりです。なかなか思うようには進んでいきません。そして私の任期を超えて、息長く継続されなければなりません。しかし私は、きっとだんだんとよくなっていくだろうという楽観的な期待を抱いています。この人たちにできないはずがない、と思っています。

職場の病院だけでなく、町全体も少しずつ発展していくのを感じます。もちろん田舎町です。道を牛車が通って行きます。けれどその同じ道に、ずいぶん自動車が増えてきました。その自動車は、ほとんどが日本製です。日本と世界がつながっている限り、日本は世界の発展に貢献する機会を大切にしたいものです。協力すれば改善できると信じている日本人が、国際協力の世界でも役に立ちたいと思うのはとても自然なことです。

日本自身の歴史を紐解けば、戦後の発展は日本人自身の努力と世界からの援助とが相俟って成し遂げられました。

そして日本が高度成長を続けていた1964年、マラウイは独立を果たしました。彼らは日の丸を手本に国旗を定め、それは東京オリンピックにおいてはじめて国際舞台の場にはためいたのです。

日本を手本としたいというこの国に、はじめて青年海外協力隊が派遣されたのは1971年のことです。今年40周年に当たり、私たちの町では「ジャパン・フェスティバル」を開催します。そこでは戦後の焼け跡から日本が立ち上がり、知恵をつかって生活を改善し、いままた不条理な災害に見舞われても再び立ち上がる姿を紹介します。日本の経験がこの国にも勇気を与えられればとの思いからです。

困難な環境にあってもそれを克服しようと努力する姿には、自ずと救いの手が差し伸べられます。私自身それを心に刻み、残り1年となった任期を全うしたいと思います。

特別寄稿

データで読む鬼平犯科帳

猪名川一雄（昭和45年 政経）

池波正太郎作・鬼平犯科帳は昭和43年からオール讀物に連載が開始され、平成2年に池波正太郎さんが亡くなられるまで20年以上の長きにわたって連載が続けられました。現在は文春文庫に全24巻がおさめられています。

鬼平とは主人公の長谷川平蔵を盗賊たちが鬼の平蔵、略して鬼平とおそれていたことに由来します。

鬼平犯科帳を初めて読んだのは昭和50年代の終わりだと思っています。それ以来、何度も読み返していますが、最近はいろいろなデータをエクセルで集計して並べ替えをするという楽しみ方をしています。

鬼平犯科帳は盗賊と、それを捕らえる火付盗賊改メとの物語ですが、盗賊には二種類あるとされています。

ひとつは、刃物で脅して金を出させるのは素人がすることだ、俺たちには店の者に気づかれずに金を盗みだす技術があると自負している盗賊です。鬼平用語では本格盗（つと）めと呼びます。本格盗めの被害額ベスト5は次のとおりです。

	被害額	盗賊名	被害者	業種
1	4200余両	蓮沼の市兵衛	恵比寿屋政五郎	真綿問屋
2	三千数百両	名越の松右衛門	熊野屋作兵衛	線香問屋
3	二千近く	泥鰌の和助	小津屋源兵衛	紙問屋
4	1870余両	尻毛の長右衛門	岩附屋新三郎	茶問屋
5	1400余両	猿皮の小兵衛	筑後屋仙右衛門	回船問屋

1両＝10万円としても、1位の蓮沼の市兵衛が盗みだした金額はなんと4億2千万円です。本格盗めでは、金蔵の金をすべて盗むことはせず、商売を続けていけるだけの金は残します。

もうひとつの盗賊は抵抗されたら殺傷もいとわないうという強盗で、鬼平用語では急ぎばたらきと呼びます。急ぎばたらきの被害額ベスト5は次のとおりです。

	被害額	盗賊名	被害者	業種
1	2200余両	長沼又兵衛	徳善寺	寺院
2	1800余両	鳥浜の岩吉	清水屋九兵衛	畳表問屋
3	1500両	倉淵の佐喜蔵	亀屋久右衛門	銘茶問屋
4	1260余両	津山薫	丁子屋彦三郎	小間物屋
5	820余両	葵小僧	嶋田十左衛門	資産家

本格盗めと比べると、被害額は少なくなっています。

3年から5年という長い期間をかけて入念な準備をする本格盗めに対し、急ぎばたらきは目星をつけた相手へ強引に押し込むという荒っぽい手口なので、

その差が出るのでしょう。急ぎばたらきでは、有り金を根こそぎ強奪します。

盗賊の被害にあった業種のベスト5も集計してみました。

	業種	登場回数
1	薬種問屋・薬種屋	11
2	小間物問屋・小間物屋	9
3	酒問屋・造り酒屋	6
4	紙問屋	5
5	線香問屋	4

急ぎばたらきでは、奉公人の数の多い大店は制圧するのが大変です。薬種問屋・薬種屋は構えは小さくても高貴薬を販売して懐は豊かだったと考えられます。

被害者の所在地には大きな特徴があります。

	所在地	登場回数
1	日本橋	16
2	芝	7
3	下谷・上野	6
4	神田	5
4	本所・深川	5

日本橋が圧倒的に多いのです。商家が集中していたことと、江戸のころの日本橋には日本橋川、楓川などの水路が発達していましたから盗んだ金を舟で運ぶのに便利だったからでしょうか。

池波正太郎さんの作品の特徴として、飲食する場面が多いことがあげられます。鬼平犯科帳でも数多くの店が登場しますが、そのベスト5は次のとおりです。

	屋号	業種	所在地	登場回数
1	五鉄	軍鶏鍋屋	本所	38
2	鶴や	船宿	深川	32
3	笹や	茶店	本所	19
4	嶋や	船宿	浅草	9
5	翁庵・翁蕎麦・翁屋	そば屋	深川	7

5店のうち4店が本所と深川です。1位の五鉄は長谷川平蔵が若き日に無頼の生活をおくっていたところからの根城でした。密偵（おまさ、相模の彦十）が寄宿していたこともあって登場回数が多くなっています。2位の鶴やは最古参の密偵・小房の衆八が亭主におさまっていることによります。3位の笹やはこれも平蔵の若いころからの馴染みであるお熊婆さんの店で、火付盗賊改メの連絡所として用いられています。4位の嶋やは「うまいものを食わせる」ので平蔵が最良にしています。5位の翁庵は表記がいろいろあるのですが、いずれも深川・熊井町にあるので、同じ店と判断しています。

新 入 会 員



宮崎 ちか子 (平成21年 法)
(所沢市在住)

応援部チアリーダーズとして在学時代から色々な稲門会や校友会に参加させて頂いており、自分も卒業したら応援部稲門会以外にも参加したいと考えておりました。

目黒の皆様と交流できるのをすごく楽しみにしております。どうぞ宜しくお願いします。



瓜生 昇 (平成17年 政経)
(大田区在住)

モデル事務所、スクール事業、ファイナンシャル・プランナー事務所を経営しております。

早稲田大学出身の皆さんと久しぶりに会いたくなりましたので入会してみようと思いました。

これからどうぞ宜しくお願いします。

事 務 局 便 り

2011年稲門祭開催

10月16日(日)、久しぶりの秋晴れ(と言うより真夏の日差し)のもと、全国の校友が早稲田キャンパスに一堂に会して、2011年稲門祭が盛大に開催されました。

今年は東日本大震災で被災した校友・学生への支援にも力を入れての開催ということもあり、キャンパスのあちこちで支援の看板が見受けられました。

目黒稲門会は昨年同様、福引の景品を提供し、祭典の盛り上げに一役買いました。

稲門祭実行委員の安藤(孝)幹事および笠谷幹事は早朝から記念品販売を担当されました。昨年に引き続き村上副事務局長は幟を持って早朝から駆けつけ、大隈庭園に目黒稲門会の幟を立ててくれました。

大隈庭園入口のテントでは、23区支部幹事として活躍されている井村副幹事長が震災復興関連で男山酒造のお酒販売をされ、地田編集長は受付を担当されました。また、中西千可子幹事は10号館前の「ドリンク・樽酒コーナー」で頑張っていました。

12時過ぎから大隈庭園芝生の真ん中に陣取り、阿部相談役、樋口相談役、外岡相談役および大野会長を含め10数名が円陣に座り酒を飲み交わしました。

15時から始まった福引抽せん発表では、村上副事務局長の指揮で当選券のチェックをしましたが、今

年はふるさと賞3件だけしか当選しませんでした。

当選品を宅配便で送った後、昨年同様高田馬場牧場で12名の参加で二次会を開きました。

皆さんお疲れ様でした。(小杉 記)



H P 便 り

目黒稲門会ホームページ(HP)にはこの会報も掲載されています。また、初号から全ての会報も閲覧できます。但し、HPは誰でも見ることができますので個人情報保護の観点から電話番号、卒年等は基本的に隠しています。(小杉 記)

編 集 後 記

最近、部会活動が活発になっているという声をよく耳にします。今年の夏は特別に暑さが厳しかったためちょっと一段落していましたが、秋に入り部会間で日程が重なりあう程の盛況となり、大いに盛り上がっています。

しかし、こんな中でも、会費だけ納入いただいて何も活動をしてもらえない会員の方が3分の1もおいでになります。

そうした皆さんに是非部会活動の楽しさを知っていただき一緒に活動していただきたいと、今53号会報から、部会活動へお誘いをする新しいコラムをスタートさせました。各部会長心からのPR記事です。今後毎号、シリーズで掲載していきます。

ご覧の上、是非ご参加下さい。お待ちしております。(地田 記)